



国際ロータリー 第266地区
現及び次年度
地区委員長合同会議報告書

1983 ~ '84年度

1984 ~ '85年度

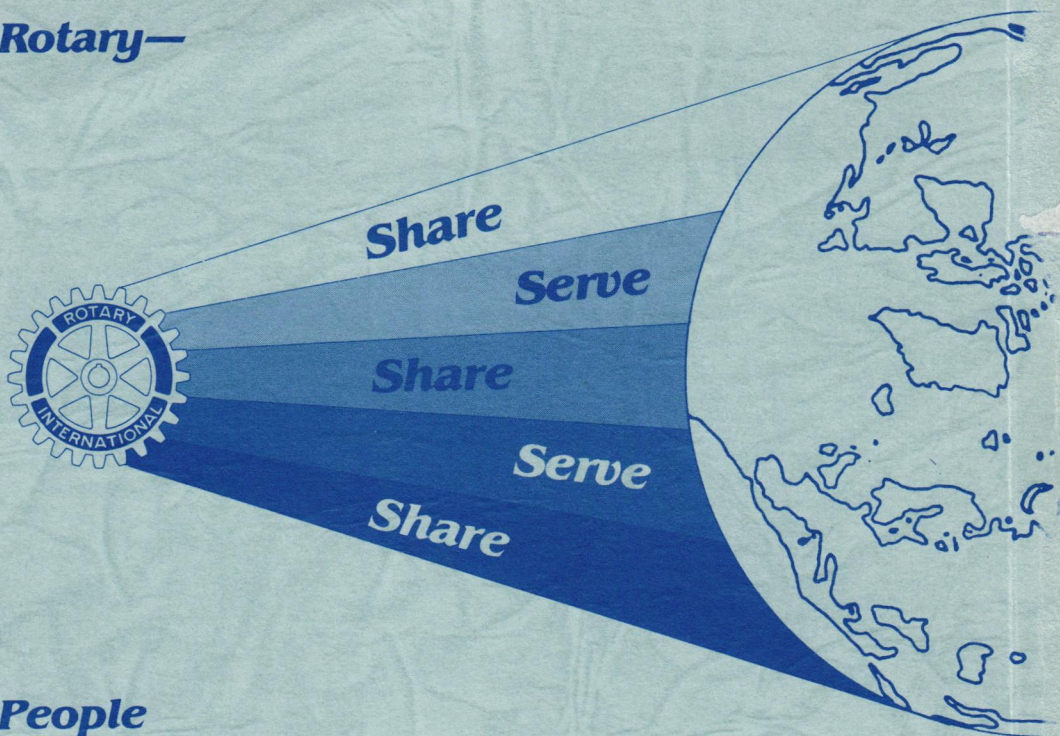
ガバナー 世戸 一夫

1984年4月21日(土)

於 薬業年金会館

みんなにロータリーを

Share Rotary—



Serve People

みんなに奉仕を

1983-'84年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーの綱領

ロータリーの綱領は、有益な事業の基礎として、奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹、育成するにある；

第一 奉仕の機会として知り合いを拡めること；

第二 実業及び専門職業の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な職業は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が、職業を通じて社会に奉仕するために、その職業を品位あらしめること；

第三 ロータリアンすべてが、その個人生活、職業生活及び社会生活に常に奉仕の理想を適用すること；

第四 奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。



ロータリーを指導される親愛なる皆さん：

ロータリーは、人々への奉仕に通じる大いなる道であります。ロータリアンの方々がよく御存知のように人々に奉仕する最上の道は、自ら立ち上げられるように助けることです。そうすることによって、ロータリアンは、ひとたびこうと決心したならば、自分たちの地域社会、職業、世界を今までと違ったものにすることができます。私達はいったん目標を決めたなら、必ずこれを成しとげ、時にはこれを超越することすらあります。私達は地域社会に、また、この世界に援助の手を求める人々がいる時には、少しでもお役に立ちたいと努めます。

ロータリー・クラブのあるところ、人々の生活は改善され、また向上します。

あなたがたのロータリー・クラブは、個々のロータリアンに内在する奉仕の力を発揮させる牽引車であります。個々のロータリアンはロータリーを必要とし、ロータリーはロータリアンを必要としています。多くの人々を会員にすることによって、今までにロータリーが成しとげた非常に大きな実績を何倍かに増大することができます。だからこそ私は、みんなにロータリーを広めることを要請しているのです。あなたがロータリーを広める時、あなたは人々に奉仕しているのです。この二つの目標は相携えて前進するものです。どちらも欠くことはできません。しかし、人々に奉仕するためには、みんなにロータリーを広めなければなりません。そこで私は本年度ロータリーの指導者として、あなたがたに一人でも多くの人をロータリーに入会させるよう努力して下さいとお願いします。あなたの創意を生かして下さい。時の試練を経た方法、新しいアイデアを活用して下さい。一層多くの人をあなたに迎えて下さい。ロータリーは、老若を問わず、あらゆる有用な実業および専門職業に携わる人を必要としています。そうすることによって、誰であろうと、何処であろうと一人でも多くのニーズに応えられるのです。

本年度が大きな成果をあげる年であることを希望します——会員増強に、地域社会の発展に、職業活動の充実に、国際的発展に。私達には牽引車があります。——ロータリーのプログラムという牽引車が——されればこそ私達の人道的目標が実現できるのです。しかしながら、みんなに奉仕するというこの目標を達成するには、共に手を携えてロータリーのプログラムを推進する多くのロータリアンを更に必要とします。さあ皆さん、みんなにロータリーを、みんなに奉仕を。

Bill Shelton

ウィリアム E. スケルトン
1983-'84年度 国際ロータリー会長

1983-'84年度 会長賞プログラム

「みんなにロータリーを みんなに奉仕を」は、会員増強というチャレンジと人々への奉仕という二つの意味を持つテーマです。このチャレンジに取り組み、「ロータリーを分かち合う」ことによって、ロータリアンとロータリー・クラブは「人々に奉仕すること」ができるのです。

1983-'84年度会長賞プログラムは、ロータリー・クラブ会長にこのチャレンジを特別な方法で提起するものです。会長賞は、R.I. 会長と地区ガバナーが署名し、次の目標を満了したクラブ会長に贈られることになっています：

I. みんなにロータリーを

下記のいずれか一つの目標を満了すること：

A. * 次の目標に従って、あなたのクラブの純会員増を達成すること—

クラブの規模	純会員増
15名以下	1名
16-25名	2名
26-35名	3名
36-65名	4名
66名以上	5名

B. 新ロータリー・クラブのスポンサーとなること。

そして

II. みんなに奉仕を

更に、次の7項目の目標の中、3項目に該当すること：

- A. 新職業奉仕プロジェクトを始めること；
- B. 新社会奉仕プロジェクトを始めること；
- C. 新国際奉仕プロジェクトを始めること；
- D. 新インターアクト・クラブもしくは新ロータリー・クラブを提唱すること；
- E. 青少年交換に参加すること；
- F. 地区大会におけるクラブ代表者数を昨年度を上回るものとする；
- G. ロータリー財団への寄付額を昨年度の寄付額より10/パーセント増やすこと。

地区ガバナーは、地区内のどのクラブが受賞資格を備えているか判断し、証明します。そして、R.I. 事務局に受賞資格を備えたクラブとクラブ会長の名前を提出、報告しなければなりません。

(* 会員増の算出は、1983年6月30日から1984年6月30日までに増えた会員数に基づきます。)

地区ガバナーもまた、次の条件に適用場合、1983-'84年度会長賞の受賞資格を持ちます：

A. 地区内のクラブの50/パーセント以上が前記表彰資格を備えていること、

或は

B. 地区が次の五つの目標の中、三つを達成すること：

- 1. 地区内のクラブのロータリアン数が純5/パーセント増加
- 2. 地区内の平均出席率が3/パーセント上昇
- 3. 昨年度に比べ、地区大会の総出席者数が10/パーセント増加
- 4. 昨年度に比べ、地区協議会の総出席者数が10/パーセント増加
- 5. 昨年度に比べ、地区内のクラブのロータリー財団への寄付総額が少なくとも10/パーセント増加

地区ガバナーは、以上の目標に到達次第、適切な概要書を提出しR.I.事務局に報告しなければなりません。その中には、受賞対象者であるクラブとクラブ会長の名前、地区目標に関する諸活動の詳細を記載します。

現・次期地区委員長合同会議

日 時 1984年4月21日

受付 9:30~10:00

会議 10:00~16:00

場 所 薬業年金会館 3F

プ ロ グ ラ ム

10:00	開会点鐘	世戸ガバナー
10:00~10:05	ガバナー挨拶	世戸ガバナー
10:05~10:15	来賓及び現委員長紹介	世戸ガバナー
10:15~10:20	ガバナーノミニーマン挨拶	中村ガバナーノミニーマン
10:20~10:30	次年度委員長紹介	中村ガバナーノミニーマン
10:30~10:35	地区ガバナー指名委員会	(5分)
10:35~10:40	意義ある業績賞委員会	(5分)
10:40~11:25	クラブ奉仕部門	(45分)
11:25~11:45	職業奉仕部門	(20分)
11:45~12:15	社会奉仕部門	(30分)
12:15~13:00	昼 食	(45分)
13:00~13:35	青少年奉仕部門	(35分)
13:35~14:25	国際奉仕部門	(50分)
14:25~15:05	ロータリー財団部門	(40分)
15:05~15:15	休 憩	(10分)
15:15~15:35	拡大部門	(20分)
15:35~15:45	地区資金委員会	(10分)
15:45~15:55	地区大会	(10分)
15:55~16:00	ガバナー謝辞	世戸ガバナー
	ロータリーソング「我等の生業」	
16:00	閉会点鐘	世戸ガバナー

司会		G.N.	P.G.	P.G.	G.N.	GOV.	I.P.G.	P.G.	P.G.	P.G.
島津		中西	伊瀬	平井	中村	世戸	戸田	峯村	菅生	種田
陟		正二	芳吉	常次郎	俊一	一夫	孝	英薫	謙三	憲次

- 現担当P.G.
- 現年度
- 次年度
- ◎ 現・次連続

佐藤 桂一	●	地区資金	
吉村 清三 ^次	○		
村生 悦三 ^{大会委員長}	●	地区大会	
吉村 茂夫 ^{大会幹事}	●		
多屋 良三 ^{次・大会委員長}	●		
小菅 和 ^{次・大会幹事}	○		
泉 宗三郎 ^{次・大会プログラム}	○		
戸田 孝 ^{担当I.P.G.}	□		クラブ奉仕部門
岡部 次郎 ^{会員増強}	◎		
船田 芳一 ^{広報}	◎		
林 董 ^{規定情報}	◎		
安竹 一郎 ^{雑誌}	◎		
峯村 英薫 ^{担当P.G.}	□	職業奉仕部門	
中島 誠 ^{職業奉仕}	◎		

地区委員長合同会議
(現及び次年度)
昭和五十九年四月二十一日(土)

ロータリー財団部門	□	担当P.G. 伊瀬 芳吉
	◎	財団増進 石川 増雄
	◎	財団奨学 菅田 栄治
	●	研究グループ 山中 文和
	○	次・研究グループ 木川 稔
	◎	財団学友 田中 讓二
青少年奉仕部門	□	担当P.G. 種田 憲次
	◎	アドバイザー 津江 孝夫
	●	青少年活動 吉川 稔
	○	次・青少年活動 白井 治義
	●	ローターアクト 川井 信明
	○	次・ローターアクト 飯原 弘章
	●	インターアクト 平岡 英信
○	次・インターアクト 一ノ瀬 博	

社会奉仕部門		拡大部門				国際奉仕部門					
◎	□	○	●	□	◎	○	●	◎	◎	○	●
社会奉仕 浜田 実男	担当P.G. 菅生 謙三	次 村岡 英雄	山口 満雄	担当P.G. 平井常次郎	アジア地域大会行 山田 重迪	カンサス大会行 嘉納 尚	バイミンガム大会行 阪本 義樹	米山奨学 武尾敬之助	青少年交換 橋本 隆	次・世界社会奉仕 増田 鼎	世界社会奉仕 吉野 昭夫

地区ガバナー指名委員会

委員長	戸田 孝	(八 尾)
委 員	原田秀雄	(大阪北)
〃	大谷一雄	(大阪西)
〃	田宮 佐	(高 槻)
〃	峯村英薫	(大阪東)
〃	平井常次郎	(大阪南)
〃	菅生謙三	(大阪北)
〃	伊藤恭一	(大 阪)
〃	伊瀬芳吉	(池 田)
〃	種田憲次	(大阪住吉)

◎ 7月6日に第1回委員会を開き、各委員に資料を配布し選考の基本方針について討議。

- (1) 全クラブ会長経験者のリストを作成し、健康、年令その他に関して慎重に審議した。
- (2) 本年度は大阪市内の大きいクラブより選ぶ方針で検討した。(最近では池田、大阪住吉、八尾、大阪難波、東大阪の順でガバナーが選ばれている)

◎ 第2回委員会を8月5日、G事務所で開催。

◎ 第3回委員会を9月10日、都市文化センターにて開催し慎重に審議の結果

大阪西R.C.のシニア・アクティブ会員、
㈱阪神百貨店元副社長 中西正二君を

1985～86年度ガバナーノミニーフ候補者として推薦することに全員一致で決定した。

ガバナー月信5号(10月号)にて発表し、12月25日を期限として全クラブへ候補者の推薦を提案したが、指定期限までにどのクラブからも候補者の推薦がなかったので、世戸ガバナーはガバナー月信8号(1月)にて中西正二君(大阪西)を1985～86年度のR.I.第266地区ガバナーノミニーフとして宣言した。更に3月22日ザ・シンフォニーホールにおいて開催された地区年次大会に於て中西正二君はガバナーノミニーフに選出された。

意義ある業績賞委員会

委員長 戸田 孝 (八尾)
委員 伊瀬芳吉 (池田)
〃 種田憲次 (大阪住吉)

ガバナー月信3号にて「意義ある業績賞」の選定の基準5項と選定の手続を発表し、各クラブに対し表彰申請とその資料を10月29日までに応募するようにすすめた。

期限までに大東、大阪北、東大阪中、大阪住之江、豊中南、大阪城南、大阪平野、大阪うつほ、吹田、高槻の10R.C.より申請書が提出された。

昭和58年12月1日世戸ガバナー出席のもとに委員会を開催し慎重審議の結果、大東R.C.の「シックス・オクロック・コールによる青少年への奉仕」を主目的とした全市域自動放送装置の設置事業を「意義ある業績賞」として推薦した。この奉仕は自動放送設備を用いて毎夕6時に全市域の青少年向けに早く帰宅すること、家庭の手伝いをすることの呼びかけの放送を行い、青少年によい習慣をつけ、事故防止と不良化防止に貢献しようとするもので、地域社会に広く報道され、その善意と効果について多くの市民から感謝され評価されている。又同時に放送される「野崎小唄」と美しい鐘の音は青少年に愛郷の心と連帯感を醸成するのに役立つと多くの人々から喜ばれている。又自動放送装置は市の防災行政基地に設置され、当市で多発している水害、その他災害時にも活躍が見込まれている。

この奉仕活動は大東I.A.C.の協力を得て地域社会に密着し、全会員参加によるきめ細かい貴重な事業であることからこれを1983～84年度の「意義ある業績賞」に推薦したのである。

- 大阪住之江R.C.の「精薄児を励ます運動会」
- 豊中南R.C.の「青少年問題を考える市民集会」
- 大阪城南R.C.の「香港航海学校生徒への援助」
- 大阪平野R.C.の「地域へ職業倫理普及の努力」
- 高槻R.C.の「老人身障者を大阪城博覧会に招待」

以上5 R.C.の奉仕活動について何れも各R.C.の特性を生かし、会員参加の立派な事業であるので準意義ある業績賞として推薦した。

- 大阪北R.C.の「梅田地下街美化運動と、高齢者の声募集」
- 東大阪中R.C.の「あかつき通信」
- 大阪うつほR.C.の「大阪築城400年祭への奉仕……青少年と共に」
- 吹田R.C.の「地域健康の会に協賛参加と福祉事業」

以上4 R.C.の奉仕活動は各R.C.の熱心な企画による意義深い効果的な事業であるので、ガバナーより感謝状を贈呈されるよう要望した。

以上10件にのぼる各R.C.の熱心な奉仕活動は地区年次大会第2日、3月23日において表彰された。

クラブ奉仕部門

担当直前ガバナー 戸田 孝 (八尾)

地区クラブ奉仕部門は、会員増強、広報、規定情報、雑誌の4委員会からなり、国際ロータリー会長ウイリアム・E・スケルトンのテーマ

「みんなにロータリーを——みんなに奉仕を」にそって各R.C.、各R.n.がそれぞれの特性を生かしながら活発に活動し、より効果的に奉仕の理想を実践しやすくする手伝いを各R.C.、各R.n.の自主性を損じない範囲で行う為にガバナーが選任した経験豊かな委員長を中心に各委員会は熱心に取組んでいる。

各委員会の活動状況は各事業報告による。

会員増強委員会

委員長	岡部次郎	(箕 面)
委員	青井 隆	(大阪東)
〃	田中光雄	(八 尾)
〃	安田光憲	(大阪心斎橋)
〃	徳田正也	(枚方-くずは)

本年度はR.I.会長が会員増強を最重点目標の一つとして取り上げられ、また当地区としては前年度日本全地区中第一位の実績をふまえてのスタートになりました。

年度初めに全地区の担当者を一同に集めての東京セミナーも行われ、かなりのノルマを背負わされた感じでした。

委員会活動としては、先ず年度当初に各クラブに対して年度中の増強に積極的に御尽力いただくよう御依頼申し上げると同時に、その具体策について会員増強委員長各位に提言をさせていただきます。

次に東京セミナーの要望・提案をふまえて各クラブの会員増強委員長にアンケートにお答えいただき、その集計を終えた時点で10月26日に委員長会議を開きました。

アンケートの集計から判断致しますと、本年度の会長賞プログラムに示された増強の実増数字については妥当とする意見が多数を占め意を強く致しました。しかし乍ら実際にはなかなか困難であることが月々の数字として表われてきました。残る期間中に最大限の努力がまたれるところです。

ともあれ、委員長会議は世戸Gov.、中村G.N.、戸田直前Gov.の御指導のもとに活きみなざる有益なものとなり、あとは各クラブの御努力を期待することになりました。

拡大による会員増強がどの程度見込まれるかも大きな要素となってきます。期初の54クラブ内での増強がそれぞれ会長賞プログラムに示された純増数に達し、加えて拡大による増強が順調にいけば申し分ないところです。

毎年々々、増強々々と声を高く叫びますと反発も起こるものですが、組織が発展するためには常に若い会員を加えていかねばならないことも事実です。従って会員増強は単年度の重点目標にとどまることなく、次年度もまたその次年度も地味に続けていかねばならない課題だと思えます。

広報委員会

委員長 船田芳一 (大阪)
委員 高木一見 (大阪南)
" 中村 覚 (大阪北)

1. 当委員会では昭和58年8月22日に、世戸一夫ガバナーと在阪主要新聞社、放送会社のロータリー担当記者との懇談会を開催し、多数の記者の出席を得て、隔意のない話し合いを行った。記者の意見を統合すると、押しつけ的な情報の流し方では成功しないこと、並びにロータリーの活動自体に、如何にして社会性や、時宜にあった意義をもたせるかが、取材心を刺戟する要素であることの二点である。今後の広報活動の指針として受けとめたい。
又、昨年度は、何回か、各ロータリーの広報委員の方から、広報の流し先などに就いてご質問を頂いたことがあったが、今年度は一回も問合せを頂かなかった。夫々軌道に乗ってこられたものと思っている。
2. 地区広報委員会としては、新聞、放送等に取材し報道される素材を流すことよりも、新聞社、放送会社の記者の方々との接触を深めることに重点を置いた方が良いのではないかと思います。そのためには、形式バラない交流の方法が考えられないか、研究の要があるでしょう。(国際ロータリー本部から送ってくる書類は、日本のマスコミにとって殆ど興味を惹かぬものが多い)

規定情報委員会

役員名簿

委員長	林 ^{ただす} 董	(豊 中)
委 員	村田悦蔵	(大阪北)
〃	高橋定一	(池 田)
〃	池永義和	(東大阪)

当委員会はロータリーに関する諸規定及び諸情報の普及徹底に努め、「みんなにロータリーを——みんなに奉仕を」の実践目標として活動した。

1. 諸規定の普及徹底に関する活動

- (1) 昨年度の規定審議会で採択された改正案46件（制定案36件、決議案10件）に対しては大坂城東（83-124、152）大阪西南（83-9、34、90、108、112、115、144）豊中（2、124、152）の3クラブが反対の意志表示をされたが、改正案は全部承認され本年1月1日から実施されることになった。此の中では特に83-124、152の対処方法について詳細に説明した。
- (2) 改正されたクラブ定款の普及徹底は各クラブに於て実施されるよう、又新しい推奨クラブ細則に基づき各クラブの細則を改定（クラブ奉仕部門をクラブ奉仕委員会に改める等）されるよう要請した。
- (3) 各クラブに規定委員会又は規定担当者を常置してもらうよう要望して来たが、41クラブが常置するようになった。

2. ロータリー情報の普及徹底に関する活動

- (1) 昨年9月10日（土）13：00～15：30、YWCAに於てクラブロータリー情報及び規定委員長（規定担当者）会議を開催し、前記諸規定の他ロータリー情報全般特に会員候補者に対する入会前教育（説明）及び新入会員入会直後の早期教育を徹底するよう強調し、ベシックライブラリーの活用を奨励した。
- (2) 改正手続要覧は成るべく全会員にもたせるよう要望した。又委員会として改正個所の新旧対照表を作成する予定である。

3. 次年度の予定

- (1) 次年度の委員会は高橋定一氏（池田）が退任し、中筋一朗氏（大阪西）が新任されることになった。
- (2) 本年9月12日（水）14：00～16：00、薬業年金会館に於て、クラブロータリー情報委員長（規定委員長或は規定担当者）会議を開催し、ロータリーに関する諸規定特に改正クラブ定款及びクラブ細則について検討すると共にロータリー情報全般の普及徹底を企画している。

雑誌委員会

委員長	安竹一郎	(大阪西)
委員	村主恵快	(茨木)
〃	松本盛二	(大阪)

これまでの活動と今後の計画

1. 昨年9月24日地区雑誌委員長会議を開き世界および日本のロータリーの情報源である「ロータリーの友」をさらに広く会員に読んでもらうため雑誌委員長として行動を起こすことを申し合わせた。特に「友」を親しみあるものにするため会員の投稿を活発にする点については、「友愛の広場」「卓話の泉」「私の好きな言葉」「健康ひとくちめも」「ロータリー俳壇」「ロータリー・アット・ワーク」などの欄に当地区からの投稿がかなり掲載されている。
2. 4月は雑誌月間に当たりクラブ毎に月間行事が実施されているが、卓話の申し入れについては、地区委員と手分けして各クラブに出向いている。
3. 次年度も引きつづき雑誌委員長となりますので、新年度なるべく早く地区雑誌委員長会議を開き、各クラブの具体的な活動状況をつかみたい。

職業奉仕委員会

委員長	中島 誠	(池 田)
委員	大西 淳	(大阪平野)
〃	中西和也	(箕 面)
〃	常持 敦	(寝屋川)
〃	有澤正雄	(大阪難波)

ロータリーの奉仕活動の主流は職業奉仕でありそれは会員各個人が実行することであることはすでにご理解頂いておることである。従って職業奉仕委員会不要論も一部にはある様であるが会員の奉仕活動に協力し助言を与えるためには委員会が必要であり地区職業奉仕委員会も上意下達を図りつつ地区内各クラブに諸情報を提供する役目を課すものである。

本年度の始め地区職業奉仕委員会を開催し本年度の活動方針として、

- (1) 卓話その他適当な機会を捕えて出来るだけ多くの会員から自分の職業奉仕の実績を発表して頂く。
- (2) 四つのテストの地域社会への導入。
- (3) 青少年への職業情報の提供。
- (4) 職業奉仕月間には創意をこらした多彩な行事を実施すること。
- (5) 貿易摩擦にかんがみ国際職業奉仕を検討すること。
- (6) 職業奉仕についての自問自答の採点表を地区内全クラブに実施報告をお願いする。

以上の6項目を決定お願い致したが(1)から(5)までは従来とはあまり変りなく定型的なものが多かったのはわれわれの力不足を痛感する次第である。次に報告を頂いたクラブ活動のなかより特記したいと考えるものをご報告致したい。

大阪平野クラブは四つのテストを地域社会に拡大する目的をもってアイデアに富んだステッカーを作成新聞配達少年約200人に配布使用させて地域社会の注目を浴びた。

箕面中央クラブは相互扶助委員会(仮称)を設置し会員相互の情報交換、業務上の協力援助を計画しておる。

東大阪クラブは会員企業の具体的職業内容社是社訓 会員の担当業務 業界団体での活動状況 受賞歴等を調査しその結果を全会員に報告し相互理解の一助とした。

大阪クラブは前期行ったフォーラムを編集印刷し会員に配布した。

八尾中クラブは会員の職業奉仕の実態を調査しその代表的事例を発表する。

守口クラブは昨年と同様フィリッピンカラヤン市への医療奉仕を昨年末実施し患者数1,370名病名2,000件におよび医療人員の不足を訴えておる。

次に地区委員会の活動としては前述の職業奉仕についての自問自答の採点表の集計があり 幸い地区内54クラブのご協力により全クラブより提出を頂き回収率も60.21%とまずまずの成績でと言ってよいので別添の通り調査書を作成した。各クラブ会長、職業奉仕委員長各位のご協力に心から感謝する次第である。また昨年11月25日各クラブ職業奉仕委員長会議を開催し上半期の実績及びその反省を議案として実りのある会合をもった。(ガバナー月信第8号4頁参照)

社会奉仕部門

担当パストガバナー 菅生謙三 (大阪北)

1. 地区内のクラブ社会奉仕（環境資源を含む）委員長会議を、昭和58年8月9日開催し、年初活動計画を検討協議し下記の具体的計画を定めた。出席率83.3%
2. 社会奉仕委員会としての活動
 - (1) 白浜ホテル川久への福祉施設児童の招待（豊中—大阪国際空港R.C.の実施して来たものを地区レベルに拡大）
 - (2) 自殺防止センターへの援助（大阪心齋橋R.C.の実施中の活動への地区レベルでの協力参加）
3. 環境資源委員会としての活動
日本の松の緑を守る運動への協力参加
4. 活動の報告
 - (1) については、高槻東R.C.がイニシアティブをとり、大阪府民生部障害更生課並びに大阪府肢体不自由児協会の協力により実施の運びとなったが、その直前になって、川久ホテルのロビーの改装工事等のため、時期的に中止のやむなきに至り、次年度実施に繰り延べることになった。
 - (2) については、命の電話運動との競合のため多少の混乱はあったが、個人の維持会員やクラブ単位の申込みもありその集計は追って発表される筈。
 - (3) 日本の松の緑を守る運動は、全国ガバナー連絡会議で重点活動として採択された経緯から、クラブ及び会員の協力参加が推進され、その実績も既に発表済みである。
 - (4) その他大阪築城400年祭に際し、大阪市内R.C.合同で、大阪城玉造門脇に樹令150年の黒松を天守閣の門冠となるよう設計し寄贈した。
更に大阪21世紀協会行事に協賛し、第1回全国都市緑化祭に、当委員会、地区ロータアクト並びにインターアクトの3委員会合同にて、服部緑地公園及び服部住吉神社に於て、松くい虫防除の樹幹注入薬の実施活動と清掃奉仕を行った。
5. アントート実施
 - (1)社会奉仕委員会として、各R.C.に対し下記事項につきアンケート実施をし、その結果を小冊子に纏め配布して参考の資に供したい。
 - ① 本年度（1983～84）の社会奉仕活動の実績
 - ② 社会奉仕活動遂行に当たりの問題点
 - ③ 次年度（1984～85）の特に目新しい事業計画
 - (2) 環境資源委員会として
日本の松の緑を守る運動参加入会に関するアンケート回答を、昭和59年2月28日までに求め、その集計は追って発表される筈

社会奉仕委員会

委員長	浜田実男	(高槻東)
委員	水野啓之介	(豊中—大阪国際空港)
〃	西原 明	(大阪心斎橋)
〃	寶田重幸	(大阪梅田)

地区内社会奉仕委員長会議を昭和58年8月9日に業業年金会館で開催し次の議題を協議した。

- (1) 白浜ホテル“川久”への福祉施設児童の招待について
- (2) 自殺防止センターについて

議題(1)については高槻東ロータリークラブが大阪府民生部障害更生課並びに大阪府肢体不自由児協会の御協力に依り障害児を12月下旬にホテル“川久”に招待することに決めていたが、直前になってホテル側からロビーの修理をするので今年を取り止めるとの申し入れがあったため残念乍ら次年度に繰り延べることになった。

議題(2)については各クラブ共積極的な関心を示し、卓話依頼がクラブ、個人での寄付(維持会員)が5クラブから合計70名、クラブ単位での寄付が各種合わせて5クラブあり委員長会議後の活発な奉仕活動の成果が裏付けられた。尚この会議の出席率は54クラブ中45クラブの出席で83.3%であった。

現在各クラブより次の項目によりアンケート調査中であり、出来上れば小冊子にし各クラブに配布し今後の奉仕活動の参考に供したい。

- ① 本年度(1983~1984)の社会奉仕活動の実績
- ② 社会奉仕活動遂行に当たっての問題点
- ③ 次年度(1984~1985)の特に目新しい事業計画

昭和59年2月14日に菅生パストガバナー出席の下に次期地区委員会を開いて次の議題を協議した。

- (1) 次年度活動方針について
- (2) その他

議題(1)については本年度活動方針をその儘次年度の方針とすることになった。議題(2)については地区協議会での社会奉仕部門の運営方法、次年度社会奉仕委員長会議の日時、場所の決定等について協議した。次年度も委員長以下ほとんどの委員が留任することになったので、本年度やりとげられなかったことを重点的に取り上げ完成させたい。

1983～84年環境資源委員会活動報告

委員長	三成利男	(大阪南)
委員	平川恵一	(大阪北)
〃	西村一夫	(池田)
〃	常盤泰弘	(守口)

84. 6. 4.

1) 日本の松の緑を守る運動への協力参加。

①日本の松の緑を守る運動は、全国ガバナー会議で重点活動として採択せられ、第2年度を迎えた。世戸一夫Gはクラブ及び会員の協力参加を各RCに対する公式訪問の都度・勸奨され、当委員会は菅生謙三担当PGの指導であらゆる機会に推進した。

②また日本の松の緑を守る運動参加入会に関するアンケート回答を、2月28日迄と、第二次は5月15日迄に求めた。目下これを取纏め、6月迄に関係先に報告通報する。

③以上により、今年度はクラブ及び会員の入会参加は飛躍的に増加し、重点活動として推進された成果はあると高く評価された。相当数のクラブはこの運動の意義について深く理解し、全員に近い会員が参加したり、目下重点的に推進中と回答のクラブが多く、反面第2年度は十分推進出来ず、最終年度(84～5)に申送り、具体的成果をあげたいとするクラブも少なくはなく、各RC間にバランスのとれたものとはならなかった。当地区各RC別入会状況は84年6月30日現在の集計を報告通報する。

④日本の松の緑を守る運動は当地区提唱の全国的国民運動だけあって、上記の如く266地区のクラブ及び会員の協力参加は断然リードしているが、他地区は特別の地域やRCを除いていまだ低調である。そこで全国ガバナー会議は84年3月21日、日本の松の緑を守る実行推進の件を第1議題として上程審議され、84年7月1日以降を期して、全国ロータリアン一人千円程度の寄付を強制を伴わず、重複を避け募金することを採決した。従って全国ガバナー会議は一人千円程度募金の案内状を各地区現・次期ガバナー及び担当に説明書並にロータリアン個人宛の質問票を各地区各RC会長並に担当宛、84年5月末迄を目途に配布される。全国ガバナー会議において、上記一人千円程度募金の上程採決につき、世戸一夫ガバナーが副議長として強力に提言された。改めて関係各位の倍旧の協力と推進をお願いする。

2) 大阪築城400年祭に際し、大阪市内RC合同で、大阪城玉造門脇に樹令150年の黒松を天守閣の門冠となるように設計し寄贈した。

3) 大阪21世紀協会行事に協賛し、第1回全国都市緑化祭に当委員会、地区ローターアクト並にインターアクトの3委員会合同にて、約160名が服部緑地公園及び服部住吉神社に於て、松くい虫防除の樹幹注入薬の実施活動と清掃奉仕を行った。

青少年活動委員会

委員長	吉川 稔	(寝屋川)
委員	徳永篤順	(大阪天満橋)
〃	橋本 隆	(八尾東)
〃	白井治義	(大阪西北)
〃	知念良祐	(池 田)

1. ブロック別青少年委員長会議

地区内ロータリークラブをAブロック（開催日6月17日）Bブロック（開催日7月13日）に分け、青少年奉仕部門各委員長及び地区より青少年活動委員全員とローターアクト委員長、インターアクト委員長出席のもと各ロータリークラブの青少年奉仕に対する取組みの情報交換及び青少年活動の問題点などを話し合い、又地区からはロータリー仲よしキャンプとライラの参加要請及びローターアクトクラブ、インターアクトクラブに対する理解を深めて頂いた。

2. ロータリー仲よしキャンプ

8月21日より8月23日迄の3日間本年度で第四回目の「ロータリー仲よしキャンプ」を大阪府青少年野外活動センターで、小学生5年生、6年生の男女児童32名が参加、実施したロータリアンと大阪府野外活動センターカウンセラー指導のもと楽しいキャンプ生活を体験、自然の生活の中で、良い友を見出し、友情を深め、責任感を体得出来た事は有意義であった。

3. ライラ、ロータリー青少年指導者養成セミナー

58年10月8日より10月10日迄の3日間Aブロックのライラ計画を実施した。当初活動方針通りセミナーを通じて、地域及び勤務先で、指導者たり得る素質ある若者に実施訓練の機会を与えて、青少年の指導力を育成し地域及び勤務先での活躍を期待すると共にロータリーの奉仕の精神を理解してもらった。

場 所 大阪府青少年野外活動センター
ホストクラブ 大阪西北ロータリークラブ
参加者 77名（青年49名ロータリアン28名）

第2回目のライラ計画は次の通りである。

Bブロック

開催日 昭和59年4月28日～30日迄の2泊3日
場 所 大阪府総合青少年野外活動センター
ホストクラブ 豊中ロータリークラブ

84
07.80~

ローターアクト委員会

委員長	川井信明	(大阪南)
委員	中島博司	(大阪東)
〃	飯原弘章	(大阪住吉)
〃	津川正幸	(池田)

1. ローターアクト委員会活動報告

当委員会が主催し、指導し、または関与して行われた地区ローターアクト関係の行事（但し、主たるもの）は、次の通りです。

1983年7月10日 地区合同連絡協議会及び第1回リーダーシップ・フォーラム

7月23日 提唱R.C.合同ローターアクト正副委員長会議

8月4～10日 海外研修（於・香港・中国中山県・シンガポール）

9月4日 第1回新人オリエンテーション

11月6日 大阪ゾーン連絡協議会

11月13日 北大阪ゾーン連絡協議会

1984年1月21～22日 第2回リーダーシップ・フォーラム及び第2回新人オリエンテーション

3月3～4日 全国合同地区代表者会議（主催者・種田パスト・ガバナー、主管者・津江アドバイザー）

なお、当年度の今後において、次の行事が予定されており、現に準備が進められています。

4月22日 新旧会長幹事研修連絡会

5月13日 地区ローターアクト年次大会（テーマ「話し合おう、アジアの明日を！——OSAKA CONVENTION——」）

以上の外、当委員会は1983年12月25日にローターアクト・クラブ「ガイドブック」を刊行しました。これは、新入会員に対するローターアクトの案内書であるとともに、一般会員らが常に参照すべき、国際ロータリー理事会の方針声明、標準ローターアクト・クラブ定款、役員必携、等を盛込んでおり、携帯に便利なようにB6版50頁にまとめていますので、今後大いに活用頂けるものと期待しています（頒価1冊300円。現在、当委員会には、約850冊の手持ちがあります。）

地区内における新ローターアクト・クラブの創設については、当委員会からの働きかけにより、1クラブが次年度中に、1クラブが2～3年以内に創設されることが見込めるようになっていきます。

2. 次年度委員長へのメッセージ

当年度は、過去の伝統慣行に従い、さらに前年度委員会からの申し送り事項（ガイドブックの刊行、新人オリエンテーションの年2回実施、等）に副って活動致しました。次年度は、過去のよき伝統慣行を生かしながら、さらにこれに創意工夫、改善を加えられて、活動頂きたいと思えます。

特に、次の2点について御努力頂くことを希望します。

- (1) 海外研修については、参加者募集の段階から、海外研修の趣旨目的を十分に徹底させて頂き、参加者を研修の成果の期待できる者のみに、制限されること。
- (2) 新ローターアクト・クラブ結成のために、引き続き御尽力頂くこと。

インターアクト委員会

委員長	平岡英信	(大阪南)
委員	一ノ瀬博	(大阪住吉)
〃	畑田 豊	(大阪城南)
〃	土井義夫	(大阪南西)
〃	高林辰行	(大阪西北)

I A C 活動報告

6/26:266地区生歓迎会ハイキング実施、6/28:スクラム9号発行。7/24:年次大会にて奉仕活動の講演を開き、南インドに井戸を贈る為の募金活動。募金額209,323円を寄贈、同アジア協会より感謝状を受理。9月~10月:各クラブで文化祭に参加。IACのP.R.活動。10/16:大阪城植樹祭にて清掃奉仕と植樹。11/6:「松の緑を大切に」のキャンペーンに参加、防虫剤の注入。11/14:スクラム10号発行。11/26:リーダーシップフォーラムで各クラブの活動報告及び、海外研修オリエンテーション。12/25~12/29:海外研修中国に研修旅行。1/28:顧問会。ビデオテープの発送。3/24:R.C.地区大会に参加。

隣接地区との交流、歓迎会。年次大会等3件。地区残行事——研修報告書作成、顧問会、新入生歓迎会等。

◎次年度への要望事項——ロータリアンに理解してもらおう事。クラブ内部の充実。予算の30万円追加等。

世界社会奉仕委員会

委員長	吉野昭夫	(大阪駅)
委員	増田 鼎	(八尾)
〃	細川益男	(大阪南)
〃	中村俊一	(東大阪)

1982～83年度は、スリランカへ過年度贈呈分の実施状況視察と追加資金贈呈の為の訪問団を派遣したり、国際交流委員会と協同してマच्छド地区へ赴き救援を行う等、外向きの活動をしてきたが、本年度はR.I.のLibrary of Projectsに取り組むという委員会方針を推進した。現在、世界社会奉仕情報要請書式により資料請求をしているが未だ回示されていない。

会員拠金の当初申出額は45R.C.計8,370,600円であったが、3月末日現在7,668,600円の拠金を確認している。残余の分については4月末頃にクラブレベル実施状況調査を行う計画であり、その折更に詳しく調査し、最終的な御報告はマンスリーレターで行って戴く計画である。

既に送金を済ませたもの及び計画中のプロジェクトは次の通りである。

(1)守口R.C.とバコロドR.C.が協同して行うフィリピン・ネグロス島医療奉仕に対する援助1,000,000円 (2)リベルダーデR.C.と協同して行うブラジル地区への日系医療施設建設の為の援助US\$5,000 (3)日本B.C.G.基金援助100,000円 (4)岩村昇博士P.H.D.運動援助300,000円 (5)コロombo北R.C.と協同して行うスリランカ老人ホームへの救援400,000円 (6)Water is Lifeキャンペーンに協力してフィリピンに対する井戸掘技術援助資金約2,000,000円 (7)資料請求中のアジア・アフリカ難民救援1,000,000円 (8)資料請求中のアジア・アフリカ医療救済援助1,000,000円 但し(1)～(5)は送金済である。拠金申出のクラブが単独実施に変更されたり、拠金額を増やして戴いたクラブもあり、年度末迄には多少の差異が生ずると思うが、例年通り1,000,000円から1,500,000円の緊急援助引当分を控除して、お預かりした拠金はそれぞれ目的に従って有意義に実施できたものと自負している。もし大きな緊急援助の要請がなければ、最終的にはR.I.のLibraryから医療救済(ポリオ)と第927地区から1984年2月の南アフリカに発生した台風の被害救援依頼が来ているのでそれに充当したい。

二期の活動を経て反省する事は、現地に行ってみ聞した後に実施するのが最も良いとは言え、会期や費用の事も考慮すると、地区レベルでの実施という考え方より、地区内のクラブが実施し、または実施しようとしているプロジェクトを自薦他薦により積極的に地区内に宣伝し、これに協力するクラブを見つけ出してプロジェクト推進を助けるというような、例えば守口R.C.に対して行った地区資金の援助の方法や、推進プロジェクトの決定と実施を1年ずらして、前任者の決定分を後任者が実施する等考えながら、クラブでの計画時点と地区の作業のタイミングを調整する必要を痛感した。

青少年交換委員会

委員長	橋本憲之	(大阪南)
委員	中村俊一	(東大阪)
"	木川 稔	(摂津)
"	入江和夫	(高槻)
"	小泉光恵	(千里)
"	坂本 旭	(大阪東淀)

1. 1983~84年度交換学生の状況

氏名		スポンサーRC	ホストRC	通学校	備考
1) James R. Steman	男	D 5 9 5 (米) Golden Valley RC	大阪北	甲南高校	1983.8 来日
2) Lisa A. Wedel	女	D 5 9 5 (米) Burnsville RC	寝屋川	寝屋川高校	同上
3) Andrea E. Myklebust	女	D 6 2 5 (米) Downtown La Crosse RC	箕面	ひばりがおか 学園高校	同上
4) Amy D. Le h	女	D 7 5 1 (米) NorthHunterlonRC	大阪西	梅花学園高校	同上
5) B. Andrew Hoover III	男	D 7 3 9 (米) York RC	大阪東	清風高校	同上
6) W. Sean Brecht	男	D 5 8 4 (米) Sequin RC	大阪阿倍野	清風高校	同上
7) Leopoldo Barretto Jr.	男	D459(ブラジル) Mococa RC	八尾	清風高校	1983.12 来日
8) Osato Paulo	男	D459(ブラジル) Campinas RC	大阪難波	清風高校	1984. 3 来日
9) 平井 久代	女	寝屋川	D 5 8 4 (米) SanAntonio RC	Churchill H. S.	1983. 8 出発
10) 鳥井 晶子	女	大阪西	D 7 8 7 (米) Poultney RC	Poultney H. S.	同上
11) 森川 千彰	女	大阪北	D 5 9 5 (米) St. LouisPark RC	St. Louis ParkH.S.	1984. 3 帰国
12) 辻野 美法	女	大阪阿倍野	D 5 9 5 (米) New Prague RC	New Prague Senior H. S.	同上
13) 野口 恵子	女	箕面中央	D 1 7 2 (仏) Orleans RC		同上
14) Agnes M. N. Brossollet	女	D 1 7 2 (仏) Orleans RC	箕面中央	青山短大	同上

2. 1984～85年度交換学生の状況

氏名		スポンサーRC	ホストRC	通学校	備考
1) John Todd Partridge	男	D 5 8 4 (米) San Antonio RC	吹田西		1984. 8 来日
2) Bonnie Catherine Duck	女	D 7 0 7 (加) Bolton RC	吹田西		同上
3) Annie Marie Winowiecki	女	D 6 2 9 (米) Trajerse City RC	大阪阪南		1984. 8 来日
4) Dominic John Fendt	男	D 6 2 7 (米) Fond Du Lac RC	豊中大阪 国際空港		同上
5) Margo Elizabeth Hamburger	女	D 7 8 7 (米) Concord RC	交渉中		同上
6) 山村 明	男	吹田西	D 7 0 7 (加) Mississauga RC	The Woodlands	1984. 3 出発
7) 吉川 紀子	女	豊 中	D 5 9 5 (米) Alexandria RC	Jefferson senior	同上
8) 吉川 純子	女	豊 中	D 5 9 5 (米) St. James RC	St. James Senior	同上
9) 泉 泰	男	豊中大阪 国際空港	D 6 4 6 (米) Galesburg RC	Galesburg	1984. 8 出発
10) 加藤 徳子	女	大阪阪南	D 6 5 1 (米) Metropolis RC	Massac county	同上
11) 小林 あい子	女	大阪淀川	D 7 2 6 (米) Islip RC		同上
12) 青木 香澄	女	吹田西	D 5 8 4 (米) Eagle Pass RC		同上

3. 1984～85年度短期交換学生の状況

氏名		スポンサーRC	ホストRC	通学校	備考
1) 短期交換 4名		摂津	D 6 7 1 (米)		1984. 7 出発
2) 短期交換 2名		D 6 7 1 (米)	未定		1984. 6 来日

4. 青少年交換ファミリーとホストクラブへの補助

1984～85年度も会費分担金は年額2,000円とし、他方交換学生ホストクラブへの補助は年額90万円に増額し年4回分割にて支給する。

5. 今後の予定

6月30日(土)午後1時30～3時30分まで1984～85年度交換学生受入れクラブおよびホストファミリーオリエンテーションを実施。引続き同日午後4時～6時30分まで1983～84年度交換学生(7月6日帰国)とホストファミリーへの感謝と送別の会を開催する。

米山奨学委員会

委員長	武尾敬之助	(大阪西北)
委員	木梨正夫	(東大阪)
〃	塩川二郎	(千里)
〃	大野真義	(高槻)

1. 募金活動状況

過年度の募金実績は、普通寄付1394.7万円、特別寄付5352.6万円合計6747.3万円で全日本の9.76%となり第1位であった。(一人当たり18146円、但し83年12月末現在地区会員数3697名)

本年度地区目標は一人当たり15000円、総額5600万円としている。2月末迄の特別寄付は3858.2万円で過年度同月比233万円減となっているが、普通寄付が通年で1476.7万円見込まれるので一段の努力により期末には地区目標に達するものと思われる。

7月下旬にクラブ米山奨学委員長会議を開催し、米山奨学への理解を深め併せてカウンセラー及び米山奨学生ととの昼食会のプログラムを組み効果をあげている。

米山月間(10月)にはクラブの要請に応じて奨学生或いは地区米山奨学委員が例会卓話を担当して米山奨学への会員の関心を新たに、又IGFに於ても地区委員より米山への協力を懇請して、夫々PR効果をあげている。

2. 米山奨学生

本年度の当地区の奨学生数は31名(内CY学生1名)で、その内1名は国費留学生受験のため又1名は家族病気のため米山を辞退した。CY学生は7月学位を得て離日し、16名が3月31日で奨学期間を終了した。学位を得た数は4名となる。

4月1日から継続の奨学生12名に新規の奨学生15名(内CY1名、地区奨学生1名)合計25名となる予定である。

奨学生をお預けする世話クラブのカウンセラーの方々には格別のご配慮をいただき学生から感謝されている。

昨秋11月の休日リクリエーションのため奨学生を古都橿原に誘い、橿原市長さん及び橿原神宮宮司さんの歓迎を受けて学生達に感銘を与えた。

3月11日には本年度の米山奨学終了者の歓送会を催した。初めての試みとして当地区の米山奨学生OBで日本に在留する6名を招待した。

これを機会に第266地区在日米山同窓会を設立することになった。昭和37年阪大土木の奨学生で現在大阪産業大学教授の重光世洋氏が初代会長になった。(旧姓劉世燁、台湾、世話クラブ大阪RC)毎年米山奨学生終了者歓送会を同会の年次会合とし、米山奨学委員会がこれを世話することになる。

以上のような状態で目下のところ委員会の仕事は順調に遂行されている。

国際交流委員会

委員長	宮田宏章	(大阪北)
委員長代理	増田 鼎	(八尾)
委員	湖崎 克	(大阪東)
〃	田代 通	(守口)

1. 地区委員長活動報告

- (1) 第459地区とマッチド地区としての組合せの第2年度目であり、昨年に引継ぎ、8月に地区内の交流状況のアンケートを実施、まとめを10月度のガバナー月信に掲載。
- (2) 10月25日に地区WCSと合同で、担当委員長会議を開催。実施したアンケート結果、又、WCSとの共同プロジェクトに関して、討議し以下の方針を決定した。
 - イ) 昨年中に、9クラブが初めて交流を始めた。未だ交流のない12クラブについても、少しでも交流をすすめるべく地区として努力する。
 - ロ) モコカ市内のHANDICAPPED CHILDREN ROTALY SCHOOLに\$4,500援助したが、本年もWCSと合同で引き続きマッチド地区内又は、その他の地区への援助を実現させたい。
 - ハ) 青少年交換委員会と協力して、マッチド地区内からの受入れをすすめて、交流の促進としたい。

上記方針に従って

- I. 2月7日、ガバナー事務所にて、合同委員長会議の決定に基づき、ブラジルへの援助の具体策を検討した。その結果4月4日、日航ホテルでのバレット直前ガバナー御夫妻の歓迎セレモニーの席上で、5千ドルを手渡し、261地区サンパウロ、リベルダーテR.C.(日本人街にあり日系人が多い)が、日伯援護協会と協力して、日系老人の為の病院建設をする事となり、その資金の一部援助とする事となった。
- II. マッチド地区との交流の結果、青少年交換として2名の受入れが実現した。

学 生 名	ホストクラブ
MR. BARRETTO JR. LEOPOLDO	八尾(12月より)
MR. OSATO PAULO	大阪難波(2月より)

今後は、マッチド地区だけにとどまらずWCS青少年交換委員会と協力して引き続き、合同でプロジェクトを実施し、拡く国際交流の促進を図りたい。例えば青少年交換との共通の問題として、在日外国人の日本語教育の問題があります。努力と楽しさの中で、在日外国人のランゲージの問題に役立つ方向も必要かと思われる。(PHP発行「VOICE」誌1月号のジャパネスク歌舞伎(神戸カナディアンアカデミー海野光子先生)、日本経済文化随筆1月31日「みんな俳人：外人子弟」のように日本語教育に奮闘するジャンボール絹子先生(マリトスブラザース・スクール)等の例の様に。)

会員委員会大ムキムター

予 算	150,000
支 出	31,180
残 高	118,820

(459地区直前ガバナー夫妻訪日に当り、支出予定あり。最終残高は0になる見込み)

バーミンガム大会行委員会

委員長 阪本義樹 (東大阪)

委員 小林一弘 (摂津)

川淵秀夫 (大阪)

バーミンガム大会は英国イングランドでの開催が、国際ロータリー創設以来初めてということや、久しぶりのヨーロッパ開催などの条件も重なって、非常な盛り上がりを見せています。

委員長就任当初、バーミンガムという日本人にはなじみ薄い地名に対するとまどいと、参加意欲の先行き不安にかられましたが、R.I.の熱心なPRと、旅行社の手なれた勧誘などによって、次第に盛り上がりを見せており、さらに4月15日の登録締切りまで、より一層の拍車をかけている現状です。

活動報告

1. 年初の活動計画に基づき、早速英国駐在あるいは留学経験の日本人を通じて、バーミンガムの情報収集を行った。特に印刷関係の企業がバーミンガムに多いことで、その方面からの知識が大いに役立った。
2. 上記情報に加えて、R.I.本部からの大会行事計画案内書、雑誌「友」掲載の解説を参考にし、具体的な活動計画を実施。
3. 過去の大会では会期中で不明になる会員が多い。特に世界の注目を集めている日本人ロータリアンは目立ち易いと聞いている。そこで、関係旅行社のバーミンガム大会計画に、開会より閉会までの行事を折込むよう依頼する。しかし、この結果は当方の期待通りに行われなかった。
4. バーミンガムについての情報と登録方法に関する通知と勧誘を月信1月に掲載。
5. 年度後半早々に開催した委員会で、これまでの経過を参考に、大会勧誘の具体案の詳細について検討を行う。すなわち、過去10年の大会での日本人参加者より、当地区参加者の平均人数を割出し、最低150名を努力目標にした。
6. 各旅行社へ大会申込み状況調査を行った結果、2月末現在137名の参加を確認。
7. 月信10号(3月)でバーミンガム大会の意義を強調すると共に、なお一層の参加要請を行う。
8. 各クラブ国際奉仕委員長宛に大会参加状況のアンケートを実施した。

締切りを4月10日にし、この間にもう一頑張りの勧誘努力をお願いした。

次年度委員長へのメッセージ

1. 取扱い旅行社に対して
 - (1) 大会計画に開会式及び閉会式行事を折込んだ旅行計画を企画するよう、依頼して欲しい。
 - (2) 地区からの参加人数を委員会宛に報告するよう、依頼して欲しい。

2. 各クラブ国際奉仕委員会に対して

登録締切り後、各クラブからの大会参加者氏名を報告してもらうよう要請すること

アジア地域大会行委員会

委員長 山田重迪 (大阪梅田)
委員 水野正人 (大阪)
" 萩野良雄 (大阪梅田)

1984年アジア地域大会はマニラ市(フィリッピン)に於て11月14日(水)~11月17日(土)開催されます。

- (1) ホストクラブ マニラR.C.
- (2) 会場 P.I.C.C.
- (3) 参加予定数 5,000人
- (4) 登録費用 前納 72ドル
当日払 82ドル

(5) S.A.A. 副S.A.A. 2名の内1名は日本補助S.A.A.100名の内40名は日本以上が大会の概要である。この大会は次年度の行事ではあるが、4・5月中に各クラブの担当委員に集まってもらい、会合をもつ予定にしております。

各クラブでは出来るだけ多数の会員及びご家族のご参加をご勧誘お願い申し上げます。

ロータリー財団部門

担当パストガバナー 伊瀬芳吉 (池田)

来る4月21日の地区委員長会議(現及び次年度委員長)に於ける財団部門の報告にそなえて概況を記したい。(何れ席上各委員長から説明がある予定)

(A) 増進委員会

本年度に入って活動方針の事前協議会2回と9月に地区内クラブの財団委員長会議を開いて本年度寄付額を一人平均70ドルとすることに決めると共にその方策について検討した。幸い本年1月末の本部データでは48.50ドルになっており残り5ヶ月間で何とか目標達成を期したいと熱望している。その考え方に沿って先日G.,担当P.G.委員長の連名で未達クラブにラストヘビーをかけていただくよう懇請の手紙を差しあげた。重ねてよろしくお願ひしたい次第である。

(B) 奨学会委員会

本委員会としては本年度前半を準備、打合せの期間と考えていたが弥々2月からは本番になり現在各クラブよりの奨学生推薦申込の受付中であり引続いて書類審査、一次試験、面接と大変忙しい日が続く予定である。また昨年度の奨学生として決定された方々を夫々希望の国へ送り出すお手伝いを続けている。

(C) G.S.E.委員会

本年度地区として正式な交換はないが具体的な活動として来る4月3日～5日の3日間お隣の第264地区(分割前の266地区南地域)が受け入れているカナダからのG.S.E.メンバーを当地区でお世話することになり、その準備中である。

尚懸案の英国第111地区(南イングランド並びにチャンネル諸島)とのG.S.E.プログラムが決まったのでその申合せにより本年9月1日～10月5日迄英国に派遣するメンバーについて次年度のG.及び委員会と共に準備を始めている。具体的には111地区の展望説明書と共に募集要領を記した案内書を各クラブに発送してある。念のため附記すると5月7日の申込締切、5月12日が選考予定日となっている。

(D) 学友委員会

本委員会としては日本国内は勿論海外在住の学友も含めてその近況把握につとめている。現在奨学生104名G.S.E.メンバー35名計139名の名簿が手元に纏まっている。I.G.F.またはクラブ卓話に学友派遣を依頼された時利用すると共に常にアフターケアに役立てている。

尚奨学生O.B.の会としてパストサービスクラブが出来ているが連絡を密にしてロータリー精神の発揚に努めている。また本年度夏海外に出発される奨学生に対しては回を重ねてオリエンテーションを行うと共に、随時学友懇談会を開いて先輩留学生の話の聞かせてもらい乍ら出発前の準備や民間外交をすすめると共に勉強する心構え等について猛勉強をしてもらっている。

財団増進委員会

委員長	石川増雄	(大阪西南)
委員	渡辺宏道	(豊中)
〃	原 信一	(大阪淀川)
〃	山田和義	(大阪うつぼ)
〃	栞田圭児	(大阪北)

1. 活動報告

- (1) 前年度(81.7~82.6末)1年間のR.I.に正式登録された成績をガバナー月信にて報告。地区大会よりの特別な寄付を含め1人宛77.09ドルとなる。(月信No.4)
- (2) 83~84年度を迎えるための準備委員会を伊瀬担当パストガバナーのご指導のもとに2回開催し、活動の問題点を検討。
- (3) 9月26日、西区パークホテルにて、地区口財団委員長会議開催。今回は各クラブでの独自の財団増進活動のアンケートをとり、各委員長に配布、他クラブの状況の認識と増進の工夫の資料とした。(月信No.5)
- (4) IGF 1~7組に各委員分担出席し、現況報告と増進への協力を依頼。
- (5) 大阪柏原R.C.元会長、阪口勇氏のご活躍により、柏原R.C.は大変優秀な成績をあげられた事例報告。(月信No.6)
- (6) 6~12月、上半期R.I.に正式に登録された成績をG.月信にて報告。(月信No.9)
- (7) 1984年1月末の成績の検討。
12月末では1人宛34.46ドルが1月末には48.50ドルと急増加、但し極めて優秀なクラブ(八尾東の159ドル)と尚1人平均10ドル前後のクラブとの差が特に目立つ。この格差を如何にして少なくするかが今後の検討材料と思われる。
- (8) この格差を少なくするため、3月10日、地区全R.C.会長、財団委員長宛に、1月末の成績を添付して目標達成への依頼文を発送する。特に準フェローの2年目以後の継続、新入会時によくインフォメーションして準フェローになっていただく様に、特に配慮を依頼した。

2. 今後の予定

- (1) 3月10日に発送した会長、財団委員長宛の依頼の効果を期待する。
- (2) 3月末と6月末の成績をG.月信にのせる予定。
- (3) 増進委員会を開催し、本年度の反省をもとに、次年度の方針を協議する。

3. 次年度の問題点

- (1) 寄付なのであくまでも個人の自由意志ではあるが、各クラブの会長、財団委員長の努力、工夫が非常に大きい力をもつと思われる。
- (2) 各クラブ独自の募金方法の工夫、個人を主とするか、クラブ行事を主とするか、その両者を併用するか。

- (3) 準フェローの2年目以後の寄付の継続、又新入会時に準フェローになってもらう配慮。
- (4) 既にポール、ハリス、フェローになっている方にも何等かの方法で寄付を計る方法は、
- (5) ロータリーの各種会合にて、ガバナー始め担当パストガバナー、地区委員等が根気よく財団の意義の認識を深めるべくつとめ、増進に努力する要あり。
- (6) 各クラブ間の格差をへらす努力をする。

財団奨学金委員会

委員長	菅田栄治	(大阪)
委員	山口次郎	(寝屋川)
〃	藤井昭三郎	(門真)
〃	小西池唐吉	(大阪北)
〃	名張隆政	(吹田)
〃	白羽弥右衛門	(大阪阿倍野)
〃	高士修	(守口)
〃	内藤和夫	(千里)

ロータリー財団奨学金委員会の最も重要な任務は国際ロータリーが目指している活動を展開するにふさわしい青年を選び出して奨学生として留学に送り出すことである。奨学生に対して第一に期待されるのは自国と留学国との間の非公式親善使節となるように両国の理解を深めることに奉仕するそのかたわら良い学業成績を挙げるよう努力することである。留学先として選ぶことができる国はロータリー活動がすすめられている国という制限があるがそれでも多くの国がある。英・米・仏・伊・西独は勿論のことここ数年間にオランダ、スウェーデン、デンマーク、スペイン、ポルトガル、オーストラリア、ニュージーランド、ブラジル、インドネシア、韓国等々への希望者を受け付けて選考試験をしている。

私どもの第266地区は1984～85年度には8名の留学生を送り出すことができる。これは寄付金額の多少に関係なく各地区に割り当てられる普通候補者1名の上にボーナス候補者7名が増員されて計8名を推薦することができたからである。最高ボーナスが9名であることを思えばこの地区のロータリークラブがご努力下さいた成果であるので肩身の広い思いがします。

留学生は大学院、大学、職業研修、心身障害者教師、ジャーナリズムの5課程から希望するものを選ぶことが出来る。そして補助金の内容は往復旅費、一学年間の教育費、生活費並びに関係諸費(例えば学会への出張費)等を考慮して支給されるから安心して勉学に専念できると思う。

1984～85年度の奨学生募集は昨年の中月中旬から始め、申請書の各ロータリーへの受付をこの三月一日に締切って四月十四日に第一次選考試験を実施します。男子19名、女子18名の応募者がありました。英米へ25名、西独5、伊3、デンマーク2、フランス、スペイン各1。四月二十三日に第2次選考をして8名を選ぶ作業を目下すすめている。ロータリーメンバー外の外国語の先生がたの協力を得なければならぬ業務であるところに困難なポイントがある。

研究グループ交換委員会

委員長	山中文和	(大阪南)
委員	中村俊一	(東大阪)
〃	木川 稔	(摂津)
〃	村上 実	(池田)
〃	小林龍三	(大阪)
〃	堀内 顕	(八尾東)
〃	木村康郎	(大阪西南)

- 1.かねて、ボカ・ラトーンで世戸ガバナーが交渉されておりました111地区との交換が実現のはこびとなり、9月1日出発、10月5日帰国の予定で、当方よりまず最初に派遣することになりました。
- 2.目下地区内全ロータリークラブ会長、並びに国際奉仕委員長宛に、文章をもって、候補者の推薦を依頼しております。
- 3.候補者推薦期限を5月5日として、5月12日選考予定日になっております。
- 4.次に、目下264地区へ来ておりますカナダのトロント707地区のメンバー、団長グレン・グライスはじめ6名を4月3日、4日、5日と当地区に預りました。
 - (イ)東洋製缶、茨木工場
三洋電機(株)ビデオ工場
ダイハツ工業(株)
朝日放送スタジオの研修を行いました。
 - (ロ)4月3日、大成閣にて、ガバナー、ガバナーノミニ、パストガバナー、地区委員との懇談会を開催、翌4月4日夜、日航ホテルにて開催されておりました、八尾ロータリー主催のブラジルの459地区直前ガバナー、レオポルド・バレット様を迎えての懇談会に参加し、これまた、大いに懇親の実を上げることができました。
- 5.1976年にイギリスの122地区からG.S.E.のメンバーとして当地区へ来た連中が日本へ来た時、あまりに素晴らしかったので、再び自費で日本へ来たいという申し込みがあり、9月から10月始めに来日の予定です。

財団学友委員会

委員長	田中穰二	(大阪西南)
委員	黒田巖之	(大阪淀川)
〃	湯川泰秀	(大阪)

本年度も昨年同様第264地区と合同で下記計画を実施した。

1. 財団学友名簿の整備

名簿の整備を計るため本年度より受け入れロータリークラブ名および顧問ロータリアン名を記載した。また海外在住の学友に直接連絡して近況把握に努めると共に他地区から当地区に転入学友を調査し名簿を作成した。記載学友数は奨学生104名、GSE35名計139名である。

2. 財団奨学生第1回オリエンテーションと第14回学友懇談会の開催

標記会合を10月29(土)大阪YMCA国際・社会奉仕センターで、世戸ガバナー、中村ガバナーノミニ、伊瀬パストガバナーをはじめ35名(学友26名、ロータリアン9名)参加の下に開催し、オリエンテーションでは奨学生の留学とロータリー理解をはかり、懇談会は企画進行をパストサービスクラブが行い新旧学友およびロータリアンとの親交を深めた。

3. 財団月間等の学友卓話斡旋

要請のあった当地区33クラブに卓話者(学友15名、委員2名)を派遣した。また、IGF第7組にアメリカよりの奨学生2名を紹介した。

4. 財団奨学生一泊研修の開催

パストサービスクラブの協力で3月24・25日、YMCA六甲研修センターで一泊しながら、打ち解けた雰囲気の下に先輩たちの経験談や質疑応答を中心に研修を深めた。参加者は奨学生9名、学友5名、委員3名計17名であった。

5. パストサービスクラブの助成

本年度は学友懇談会・一泊研修を含むオリエンテーションにパストサービスクラブの協力を求めると共に、PSCだより第2号の発行、PSC会費の徴収に協力して学友活動の助成に努めた。

以上が現在までの主な活動内容であるが、奨学生の出発直前に顧問ロータリアンにも出席を求めて最終オリエンテーションを開く予定である。また、PSCだより第3号発行にも協力する。

次年度委員長へのメッセージ

次年度は委員長、委員共に留任するので、本年度計画を継承して、その充実を計ると共に、とくにパストサービスクラブの育成強化と、奨学生に役立つ資料作成・他地区学友活動の調査に強調点を置き進めたい。

の活動にかかっているから、①拡大についての正しい理解と、②区域限界への深い認識、並びに③十分な情報の把握 をお願いして引継ぎといたします。

拡大委員会

拡大カウンセラー

委員長	山口満雄	(箕面)
委員	村岡秀雄	(大阪東)
〃	中村健	(箕面中央)

拡大委員会

委員	荒川直治	(豊中)
〃	井狩弥次郎	(大阪)
〃	小松英二	(大阪北)
〃	畠山武嗣	(枚方)
〃	中田肇	(池田)
〃	小林林之助	(大阪北)
〃	西村広一	(東大阪)

1. 活動経過報告

当地区拡大委員会の構成は、拡大カウンセラー3名、拡大委員7名から成っており、拡大担当パストガバナーの指導を得て、ガバナーのロータリー拡大に協力しております。

先ず今年度初頭、7月16日(土)新阪急ホテルに於ける合同地区委員会において、池田、大阪北、大阪難波、並びに豊中3 R.C.に拡大をお願いする目標を掲げたが、以後下記の如き推移をたどって、ほぼ目標の達成を見ることができました。

新クラブ	スポンサークラブ	創立	承認
大阪駅	大阪北(協力・大阪梅田)	59年1月26日	59年2月6日
大阪なにわ	大阪難波(協力・大阪南)	59年2月23日	59年3月5日
池田くれは	池田	59年4月16日	

(なお豊中3 R.C.は目下新クラブを準備中)

続いて、結成を予定されるのは

大阪鶴見	大阪城東(ガバナー特別代表委嘱済)
交野	枚方-くずは(協力・枚方)

(また東大阪R.C.も同一区域内に準備中)

2. 次年度への引継ぎ

次年度もR.I.日本支局主催の「拡大セミナー」が開催されると思われるので、ぜひ出席されることが望ましい。

本年度委員会活動の経過を見るに、ガバナーの積極性、会員増強委員会の活躍と相俟って、クラブ拡大委員のご尽力が特に目立ちました。また地区拡大委員の拡大に対する理解と努力なくして目標の達成は至難と思われれます。即ちロータリー拡大の鍵は、クラブ及び地区拡大委員

地区年次大会

委員長 村生悦三 (大阪難波)

1. 3月22日の会長幹事懇談会に始った地区年次大会は大会第二日は冷雨に見舞われましたが、その他は比較的寒さもやわらぎ?大過なく無事終了致しました。これも偏えに皆様方のご協力のお陰であります。改めてお礼申し上げます。新たに試みましたR.I.会長代理を囲む新入会員昼食会と会員の皆さまの親睦に役だてばと力を入れました“友愛の広場。は予想以上の好況を収め喜んで居る次第であります。

大会参加登録者数

来賓	48名
会員家族	2,470名
内 地区内会員	2,314名
" 家族	137名
地区外会員	17名
訳 " 家族	2名
青少年	75名
合計	2,593名

表彰

- (a)意義ある業績賞 (準を含む) 6 R.C.
- (b)R.I.会長賞 11R.C.
- (c)ロータリー財団功労者 2名
- (d)会員増強優秀クラブ 13R.C.
- (e)ロータリー財団優秀クラブ 3 R.C.
- (f)ロータリー財団10,000%突破クラブ 1 R.C.
- (g)新クラブ設立功労クラブ 4 R.C.
- (h)年間出席優秀クラブ 8 R.C.
- (i)会報優秀クラブ 5 R.C.
- (j)米山功労クラブ 45R.C.

2. 次年度委員長へのメッセージ

今回より大会に二日間出席した人に二回分のメークアップカードを出す事になりましたので、名札並にプログラム等土産物の処理にとまどいました。受付係を主に研究の余地があります。

年次大会プログラム委員会

委員長	前田信夫	(大阪難波)
委員	絹川 治	(大阪)
〃	古市 実	(大阪北)
〃	中田康仁	(大阪南)
〃	浜岡正典	(大阪西南)
〃	赤井辰蔵	(大阪南西)
〃	泉宗三郎	(東大阪)

1. 活動報告

原田秀雄パストガバナーのご指導をいただき、下記の通りプログラム委員会を開催いたしました。

記

第1回	昭和58年4月25日
第2回	昭和58年6月14日
第3回	昭和58年9月8日
第4回	昭和59年2月7日

2. 次年度委員長へのメッセージ

特別にありません。

国際ロータリー第266地区

収 支 報 告 書

昭和 59 年 3 月 31 日

地区ガバナー 世戸 一夫

地区資金委員長 佐藤 桂一

地区会計 竹内 英堯

収入の部

科 目	予 算 額	入 金 額	累 計	
前 期 繰 越 金 (予)	12,000,000		15,440,023	
R I 交 付 金	1,500,000		1,162,303	
地 区 資 金 13,000×3,700	48,100,000	280,000	49,601,500	
雑 収 入	300,000	52,500	775,612	
合 計	61,900,000	332,500	66,979,438	

預り金 2,134,498円 = 青少年交換ファンド預り金 125,000円・科学万博つくば預り金 1,524,000円・三宅島災害基金 297,000円・
世界社会奉仕基金預り金 159,600円・難波R.C.預り金 28,898円

支出の部

科 目	予 算 額	支 出 額	累 計	予 算 残 額
委 員 会 活 動 費	12,970,000	286,960	6,971,801	5,998,199
地区指名委員会	120,000		0	120,000
意義ある業績賞委員会	30,000		0	30,000
会員増強委員会	120,000		140,250	△ 20,250
クラブ奉仕部門	200,000		153,850	46,150
広報委員会	120,000		108,020	11,980
雑誌委員会	80,000		39,220	40,780
規定情報委員会	100,000		42,800	57,200
職業奉仕部門	100,000	28,100	158,640	△ 58,640
環境資源委員会	100,000		61,014	38,986
社会奉仕部門	100,000		858,630	941,370
社会奉仕委員会	1,800,000		2,436,200	63,800
青少年奉仕部門	2,500,000	150,000	1,834,450	1,665,550
国際奉仕部門	3,500,000	50,000	72,561	77,439
世界社会奉仕委員会	150,000		240,701	59,299
青少年交換委員会	300,000		11,360	338,640
米山奨学委員会	350,000	58,860	58,860	41,140
バーミンガム大会行委員会	100,000		0	100,000
アジア地域大会行委員会	100,000		31,780	118,820
国際交流委員会	150,000		58,865	91,135
拡大部門	150,000		35,400	464,600
財団奨学金委員会	* 500,000		381,680	1,618,320
ロータリー財団部門	2,000,000		72,620	77,380
研究グループ交換委員会	150,000		175,500	74,500
財団増進委員会	250,000		0	0
財団学友委員会			0	0
委員会活動予備費	5,500,000	1,170,000	2,706,700	2,793,300
会 議 費	300,000	300,000	300,000	0
地区大会	300,000		0	300,000
地区協議会	1,800,000		1,171,610	628,390
地区委員会	120,000		0	120,000
インターシティゼネラルフォーラム	120,000	120,000	120,000	0
地区大会交通会合費	1,000,000		365,090	634,910
ガバナー打合せ会議費	150,000	150,000	150,000	0
R I会長代理記念品代	350,000	350,000	350,000	0
同上歓迎費	250,000	250,000	250,000	0
直前ガバナー記念品代	500,000		0	500,000
G N国際会議参加補助	0		0	0
規定審議会派遣補助	610,000		0	610,000
予備費	740,000		594,500	145,500
日本国際ロータリー地区ガバナー連絡会議	740,000		372,500	367,500
ロータリー文庫協力費 200×3,700	11,100,000	842,500	11,529,000	△ 429,000
地区大会分担金 3,000×3,700	2,000,000		2,000,000	0
地区大会補助金	6,200,000	456,500	4,510,185	1,689,815
ガバナー	6,000,000	456,500	4,510,185	1,489,815
製版・印刷・送料・ホルダー	200,000		0	200,000
子備費	14,300,000	488,291	9,858,265	4,441,736
事務	13,800,000	488,291	9,858,265	3,941,735
所経費	500,000	0	0	500,000
事務所経費	1,000,000		0	1,000,000
子備費	54,550,000	3,244,251	38,542,951	16,007,049
合 計				

次期繰越 7,350,000円

*印は 264、266地区合同実施

残 高

収 支 差 引 残 高		30,570,985	
内 訳	現 金	100,000	
	普 通 預 金	7,470,985	
	通 知 預 金	14,000,000	
	定 期 預 金	7,000,000	
	次 期 繰 越 金	2,000,000	(ガバナーノミニ事務所前渡金)



